

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2005 年 1 月 13 日 (13.01.2005)

PCT

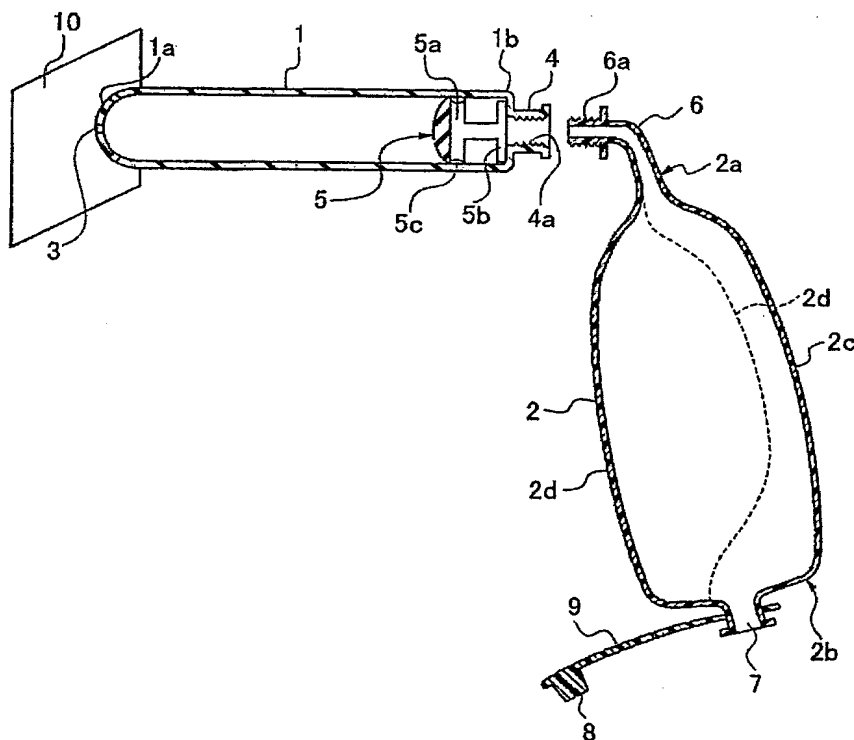
(10) 国際公開番号
WO 2005/002410 A1

- | | | |
|---------------|--|---|
| (51) 国際特許分類: | A47K 7/08, A61H 35/00 | (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ウービー有限公司 (WBE CO., LTD.) [JP/JP]; 〒170-0013 東京都豊島区東池袋一丁目 4 7 番 1 号 Tokyo (JP). |
| (21) 国際出願番号: | PCT/JP2003/010318 | (72) 発明者; および |
| (22) 国際出願日: | 2003 年 8 月 13 日 (13.08.2003) | (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 増田 智江 (MA-SUDA, Tomoe) [JP/JP]; 〒170-0013 東京都豊島区東池袋一丁目 4 7 番 1 号 ウービー有限公司内 Tokyo (JP). |
| (25) 国際出願の言語: | 日本語 | (74) 代理人: 佐々木 功, 外 (SASAKI, Isao et al.); 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1 丁目 2 番 2 9 号 虎ノ門産業ビル 6 階 佐々木内外国特許商標事務所 Tokyo (JP). |
| (26) 国際公開の言語: | 日本語 | |
| (30) 優先権データ: | 特願2003-193584 2003 年 7 月 8 日 (08.07.2003) JP | |

[続葉有]

(54) Title: PORTABLE BIDET

(54) 発明の名称: 携帯用ビデ



(57) Abstract: A portable bidet, comprising a tube body part (1) of a specified length for storing cleaning fluid and an air bag part (2) arranged continuously with the rear end part (1b) of the tube body part (1) to be commonly used as a handle part and supplying air for jetting the cleaning fluid, wherein the tube body part (1) is formed with a hard resin and the tip part (1a) thereof is formed in an arc shape and at least one jetting hole (3) is provided therein, the cleaning fluid is retained therein and an extruding member (5) is disposed therein, the jetting hole (3) is closed by a releasable film material after the cleaning fluid is stored, the air bag part (2) is formed with a deflectable or flexible resin having a sealable air inlet (7) and, when not in use, collapsed and packed in the state of being positioned along the side surface of the tube body part (1) so that not only the number of parts can be reduced to reduce a cost but also the entire size can be formed compact, and that portability can be assured conveniently, and when in

use, the air bag part (2) commonly used as the handle part is inflated so that the extruding member (5) can be moved or deformed by pressingly grasping the air bag part (2) to jet the cleaning fluid from the jetting hole (3), whereby an operation can be performed very easily.

(57) 要約: 携帯用ビデを、洗浄液を収納する所要長さの筒体部 (1) と、該筒体部の後端部 (1b) に連設され握り部を兼ねて洗浄液を噴射させるためのエアを供給するエアバッグ部 (2) とから構成し、前記筒体部 (1) を硬質の樹脂で形成し、その先端部 (1a) を円弧状に形成して少なくとも 1 個

[続葉有]



(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許

(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

の噴出孔 (3) を設けると共に、内部には洗浄液を保留し且つ押し出し部材 (5) が配設され、前記噴出孔 (3) は、洗浄液収納後に剥離可能なフィルム材で閉塞し、前記エアバック部 (2) を、封止可能なエア導入口 (7) を有する可撓性または柔軟性の樹脂で形成し、未使用時には、前記エアバック部 (2) を押し潰して前記筒体部 (1) の側面に添わせた状態にして包装する構成とすることによって、部品点数が少なくて安価に提供できるばかりでなく、全体が小型コンパクトに纏められており、携帯に便利であると共に、使用時には、握り部を兼ねたエアバック部 (2) を膨らまし、該エアバック部 (2) を握って加圧することにより押し出し部材 (5) が移動または変形して噴出孔 (3) から洗浄液を噴出させることを可能とし、操作が極めて簡単に行うことを可能とした。

明 細 書

携帯用ビデ

5 技術分野

本発明は、コンパクトに纏めて包装し常時携帯ができ、必要な時に局部の洗浄並びに殺菌・消毒・消臭等に、厄介な操作なしに直ちに且つ速やかに使用できる携帯用ビデに関するものである。

10 背景技術

従来、この種の携帯用ビデは、例えば、トイレに設置ビデが設備されていない場所でも使用できるように、しかも、携帯に便利であることが要求されていることから、種々の構成のものが開発され公知になっている。

このような実情から、例えば、合成樹脂製フィルムで形成した可撓性の貯水袋と、その貯水袋に取着して水を出し入れする流路となる送水管と、その送水管の先端に取着する噴射ノズルと、その噴射ノズルと送水管との間に流通弁部を介在させた構成を有し、貯水袋内に位置する送水管を、同貯水袋内面に熱融着したものであり、更に、噴射ノズルの先端部に横方向に突出する噴出孔が形成され、または先端部近傍に突状壁を形成した携帯用局部洗浄具が公知になっている（特開 2000-139760号公報（先行技術文献1）、第2～6頁、図1参照）。

このように構成することで、貯水袋を空の状態にして全体をコンパクトに纏めて持ち運ぶことができ、使用時において、送水管から噴射ノズルと流通弁部を取り外し、開口した送水管から水道水等の水を貯水袋内に所要量を溜めた後に、送水管の開口部に流通弁部を配設し噴射ノズルを螺着して取り付け、貯水袋を握ることにより加圧して内部の水を送水管から流通弁部を介して噴射ノズルへ送流させノズルヘッドから噴射させるものである。

また、携帯を便利にするために、例えば、蒸留水等の洗浄液を収納した弾力性を有する洗浄液ケースの開口部に蓋体を被着し、該蓋体の中心部に設けた挿通口を介して洗浄管を出没可能に設け、洗浄管の先端側を径大に形成して没入させた時に挿通口を塞ぎ、洗浄管を引き出した時に洗浄液流入孔が開く弁体を洗浄管の後端側に設けた構成であり、その弁体を開くための複雑な構成と、引き出した洗浄管を固定維持するための構成とが蓋体の内側と洗浄管の後端側とに形成された技術が公知になっている（実開平 7-45004 号公報（先行技術文献 2）、第 1～2 頁、図 1、図 2 参照）。

このように構成することで、携帯時には洗浄管が洗浄液ケース内に没入した状態になるので嵩張らず便利であり、使用時に洗浄管を引き出して弁体の洗浄液流入孔を開き、洗浄液ケースを握ることにより加圧して洗浄管の先端から洗浄水を噴出させるものである。

しかしながら、前記先行技術文献 1 に記載の発明においては、貯水袋に洗浄水を入れられない状態で持ち運びができるために携帯が便利であるが、使用時に送水管から噴射ノズルと流通弁部を取り外し、水道水等の水を貯水袋内に溜めた後に、取り外してある流通弁部と噴射ノズルを送水管の開口部に取り付ける際に、流通弁部の方向を間違えて取り付けると、貯水袋を強く握っても水が噴射せず、再度取り外してやり直さなければならず、これらの取り外し及び取り付けの作業が厄介であると共に、消毒していない水道水の使用に不安を与えるばかりでなく、その使用態様において、ノズルヘッドが横向きに突出していたり、先端部近傍に突状壁があったりすると、局部への挿入時に痛みが生じたり不快感を与えたりし、更に、洗浄によって局部から溢出する洗浄後の汚染水で手が濡れる（汚れる）状況にあるという不都合もある。

また、前記先行技術文献 2 に記載の発明においては、ケース内に予め洗浄液が充填された状態になっていることから、水道水等の消毒していない水の使用を避けるという点で不安はないが、使用時に洗浄管を引き出す際に、強く引きすぎる

と洗浄管が抜けてしまったり、また、引き出しが弱いと弁体の洗浄液流入孔が充分開かなかったりし、引き出しのストロークと弁体における洗浄液流入孔の開き具合が把握できず、その点で不安があるばかりでなく、使用時において、構成的にみても、洗浄によって局部から溢出する洗浄後の汚染水で手が濡れる（汚れる）

- 5 状況にあるという不都合があると共に、蓋体の構成、洗浄管の構成及び弁体の構成が複雑であると共に、構成部品の点数が多くなりコスト高になるという問題点を有している。

- 10 従って、従来例の携帯用ビデにおいては、嵩張らずに携帯を容易にすることはもちろんであるが、使用時において操作性が容易であること、使用時に種々の不都合がないようにすること、及び部品点数を減らして簡素化しコストを低減させるとともに、洗浄後において局部を殺菌・消毒・消臭できるようにして不安を解消させることに解決しなければならない課題を有している。

発明の開示

- 15 上記した従来例の課題を解決する具体的手段として本発明は、洗浄液を収納する所要長さの筒体部と、該筒体部の後端部に連設され握り部を兼ねて洗浄液を噴射させるためのエアを供給するエアバッグ部とから構成され、前記筒体部は、硬質の樹脂で形成されその先端部を円弧状に形成して少なくとも1個の噴出孔を設けると共に、内部には洗浄液を保留し且つ押し出し部材が配設され、前記噴出孔
- 20 は、洗浄液収納後に剥離可能なフィルム材で閉塞し、前記エアバッグ部は、封止可能なエア導入口を有する可撓性または柔軟性の樹脂で形成され、未使用時には、前記エアバッグ部を押し潰して前記筒体部の側面に添わせた状態にして包装することを特徴とする携帯用ビデを提供するものである。

- 25 この発明において、前記洗浄液は、1～20ppm濃度の銀イオン水または銀コロイド水であること；洗浄液を保留し且つ押し出し部材は、摺動可能なシリンジ部材または袋体であること；及び前記エアバッグ部には、エア導入口を塞ぐ栓

部材または弁部材が設けてあること；を付加的な要件として含むものである。

本発明に係る携帯用ビデは、筒体部の内部に洗浄液が収納されており、噴出孔側はフィルム材で閉塞されており、且つエアバック部は未使用時は押し潰して筒体部の側面に添わせて全体を包装してあるので、全体が小型コンパクトに纏められており、携帯に便利であると共に、使用時には、握り部を兼ねたエアバック部を膨らまし、フィルム材を剥がした後に、エアバック部を握って加圧することにより押し出し部材が移動または変形して噴出孔から洗浄液を噴出させることができるのであり、操作が極めて簡単に行えるばかりでなく、所要濃度の銀イオン水または銀コロイド水を洗浄液として使用することによって、洗浄後における局所の殺菌・消毒・消臭をして不安を解消させることができるのである。

図面の簡単な説明

第1図は、本発明の第1の実施の形態に係る携帯用ビデを分解し且つ要部を断面で示した側面図、

第2図は、同実施の形態に係る携帯用ビデの包装状態を略示的に示した側面図、
第3図は、同実施の形態に係る携帯用ビデの包装状態を略示的に示した端面図、
第4図は、同実施の形態に係る携帯用ビデの使用状態を略示的に示した説明図、
第5図は、本発明の第2の実施の形態に係る携帯用ビデの筒体部のみを断面で示した側面図、

第6図は、同実施の形態に係る携帯用ビデの使用状態における要部のみを略示的に断面で示した側面図である。

発明を実施するための最良の形態

次に、本発明に係る具体的な実施の形態を図面に基づいて詳しく説明する。

まず、第1図～第4図は、第1の実施の形態に係る携帯用ビデを示したものであり、該携帯用ビデは、概ね洗浄液を収納する所要長さの筒体部1と、該筒体部

の後端部に連設され握り部を兼ねて洗浄液を噴射させるためのエアを供給するエアバッグ部 2 とから構成されている。

筒体部 1 は、形状維持が可能なように比較的硬質の樹脂材で表面を滑面に形成し、その直径が略 10 ～ 20 mm で長さが略 50 ～ 100 mm の範囲であって、
5 その先端部 1 a 側は円弧状に形成すると共に、その円弧状の先端部に少なくとも 1 個、好ましくは 3 ～ 5 個程度の複数の噴出孔 3 を設けてある。この場合の噴出孔 3 の直径は 2 mm 以下（1 ～ 2 個の場合）で、好ましくは 1 mm 以下（3 ～ 5 個の場合）である。

筒体部 1 の後端部 1 b は、エアバッグ部 2 を接続させるための細径部 4 が延設
10 形成され、該細径部 4 の内側にエアバッグ部 2 を接続させるための雌ネジ部 4 a が形成されている。そして、この細径部 4 に隣接するようにして後端部 1 b の内部に、洗浄液を保留し且つ押し出し部材 5 が設けられている。

この場合の押し出し部材 5 は、エア圧が掛かったときに転倒しないように、且つ、筒体部 1 との摩擦を軽減するために、例えば、前後にフランジ部 5 a、5 b
15 を有する鼓状のシリンジであり、細径部 4 側に洗浄液が漏れないように、前側のフランジ部 5 a にシールパッキン 5 c が設けられている。

エアバッグ部 2 は、復元性を有する可撓性の樹脂で全体形状として前記筒体部 1 の約 2 倍の容積に、且つ略ボトル形状または卵形に形成され、前記筒体部 1 と接続させる先端部 2 a 側は所要長さの細径部 6 に形成し、該細径部 6 は所要の曲面をもって略 90 ～ 120 度の範囲で湾曲させてあり、その端部外表面には前記
20 雌ネジ部 4 a に螺着される雄ネジ部 6 a が形成されている。なお、復元性を有する可撓性の樹脂というのは、例えば、マヨネーズ用のチューブまたは容器と同種の樹脂であり、適度の硬度があつて折り目を付けない限り成形した形状に復元性を有するものが使用される。

25 エアバッグ部 2 の後端部 2 b 側にはエア導入口 7 が筒状に突出形成され、該エア導入口 7 を塞ぐための栓部材 8 が設けられている。この場合に、栓部材 8 は、

図示したように、別体に形成した所要長さのベルト状部 9 に取り付けたものを使用し、該ベルト状部 9 の一端を筒状に形成したエア導入口 7 の外周面に取り付け
ても良いし、また、エア導入口 7 の開口端部位から一連にベルト状部または線状
部を形成した一体のものを使用しても良い。要するに、エアバッグ部 2 内にエア
5 を導入した後にエア導入口 7 を塞げれば良いのであって、栓部材 8 がいないとき
は、指で押さえるようにしても良く、復元性を有することから握ったり緩めたり
することでポンプ機能を発揮させることもできるのである。

また、エアバッグ部 2 としては、前述したような適度の硬度があつて復元性を
有する樹脂でなくても使用できるものである。即ち、比較的柔軟性のある樹脂で
10 形成されるものであって、エアバッグ部 2 の細径部 6 から雄ネジ部 6 a に至る部
分とエア導入口 7 の部分とを厚手に形成し、他の部分は比較的薄手で、例えば、
よれよれの状態になっても良いが、伸縮性の少ない樹脂で形成し、エアバッグ部
2 全体を薄く折り畳むことができるものであっても良いのである。

この場合には、エアバッグ部 2 の容積を筒体部 1 の容積の 2 ～ 3 倍とすること
15 ができるのであり、栓部材 8 は必要なものであるから、エア導入口 7 の縁部から
ベルト状部 9 を一連に形成して栓部材 8 を一体に形成した方が良い。そして、使
用時には、自己復元性がないのであるから、エア導入口 7 から空気を吹き込んで
全体を膨らませ、栓部材 8 をエア導入口 7 に嵌合させて使用する。いずれにして
もエアバッグ部 2 を空気で満杯にする必要はなく、筒体部 1 の容積の 2 ～ 3 倍で
20 あることから 8 割程度空気が入っていれば使用可能なのである。

このように構成された第 1 の実施の形態においては、筒体部 1 の後端部 1 b の
内部に押し出し部材 5 を摺動可能に配設した状態で先端部 1 a を上向きにし、該
先端部側から、例えば、注射器のような注入器具を用い噴出孔 3 を介して、内部
に所要量の洗浄液を注入し充填した後、注入器具を引き抜いてから、接着剤層を
25 有するフィルム材 10 を用いて、先端部 1 a 側を全面的に包み込むように貼着す
ることにより噴出孔 3 を閉塞し、外部から完全にシールされた状態になって筒体

部 1 が要するに洗浄液が収納された容器になるのである。なお、フィルム材 10 は接着剤層と共に筒体部 1 から容易に剥離可能なものであり、接着剤層は洗浄液には溶解しないものが使用される。

筒体部 1 内に注入充填される洗浄液としては、蒸留水と皮膚に炎症を生じさせ
5 ないで且つ適宜の殺菌・消毒・消臭能力を有する材料（薬品を含む）を混入した
もの、例えば、1～20ppm濃度の銀イオン水または銀コロイド水等の洗浄液
が使用される。

洗浄液が注入充填された筒体部 1 の後端部 1b 側に、細径部 4 の雌ネジ部 4a
10 に、エアバック部 2 の細径部 6 の雄ネジ部 6a を螺着させることによってエアバ
ック部 2 を連通状態に接続させる。なお、必要があれば、ネジ部による接続部か
らエアが漏れないように、例えば、少量の接着剤等を外部から塗布して完全にシ
ールしても良い。

このように洗浄液が収納されている筒体部 1 に対しエアバック部 2 を接続させ
た携帯用ビデにおいては、第 2 図及び第 3 図に示したように、エアバック部 2 内
15 の空気を抜いて全体を押し潰し、一方の側のバッグ側面 2c をそのまま維持させ、
他方の側のバッグ側面 2d を仮装線（第 1 図）で示したように内側に凹ますよう
にして重ね、細径部 6 の部分を更に内側に湾曲させることによって、筒体部 1 と
エアバック部 2 とを長さ方向において重ね合わせ、筒体部 1 の側面の一部がエア
バック部 2 によって包み込まれる状態になって全体がコンパクトに纏められる。

20 この状態で、適宜の透明な包装用の袋体に入れてコンパクトに纏められた状態
を維持し、これを例えば、仮装線で示したような長方形の包装箱 A に収納するこ
とによって体裁を整え、全体が軽量・小型化されているため取り扱いが容易にな
り、特に、発売のための店頭での陳列においても体裁の良いものとなるばかりで
なく、携帯にも著しく便利なものとなる。なお、硬度がなく復元性を有しない樹
25 脂で形成したエアバック部 2 の場合には、更に、折り畳みが容易で全体を小型コ
ンパクトに纏めることができる。

そして、実際の使用に際しては、包装箱及び包装用の袋体から携帯用ビデを取り出し、細径部 6 の部分の湾曲を解くと共に、エアバッグ部 2 の重ね合わせ状態の両側を指で押圧することにより、内側に凹んでいたバッグ側面 2 d が外側に押し出されてエアバッグ部 2 が元の膨らんだボトル形状に復元させられ、エア導入口 7 から内部に十分な空気を取り入れた後に、エア導入口 7 に栓部材 8 を嵌合させて空気が漏れないように塞ぐ。

また、復元性のないエアバッグ部 2 を使用した場合には、例えば、エア導入口 7 に口を近づけて強制的に空気を吹き込んでエアバッグ部 2 を膨らませ、エア導入口 7 に栓部材 8 を嵌合させて吹き込んだ空気が漏れないように塞ぐ。

いずれにしてもエアバッグ部 2 を膨らませた後に、筒体部 1 の先端部 1 a に貼着してあるフィルム材 10 を剥がし、筒体部 1 を局部に挿着して、第 4 図に示したように、エアバッグ部 2 を手でゆっくりと握り潰すようにすることで、圧縮空気を筒体部 1 側に供給し、該供給された圧縮空気によって押し出し部材 5 が先端部 1 a 側に押圧移動させられることで、筒体部 1 内に収納した洗浄液が噴出孔 3 から局部内に噴射または噴出させ、局部内を殺菌・洗浄して消毒・消臭できるのである。

この場合に、筒体部 1 の容積の約 2 倍またはそれ以上の容積をもつエアバッグ部 2 であることにより、エアバッグ部 2 を手で強く握ってエアバッグ部 2 内の空気を押し出していれば、押し出し部材 5 が移動し続けて先端部 1 a に到達するので、内部に収納した洗浄液のほとんど全部を噴出させることができる。そして、エアバッグ部 2 を手で握ることによる内圧により細径部 6 が硬直するので、筒体部 1 を押さえなくてもエアバッグ部 2 を手でしっかりと握ってさえいれば、洗浄液の噴出による反動で局部から抜け出すことがなく、安定した状態で使用することができるのである。

第 5 図～第 6 図に第 2 の実施の形態を示してある。この第 2 の実施の形態に係る携帯用ビデは、洗浄液を保留し且つ押し出し部材の構成が前記第 1 の実施の形

態に係る携帯用ピデと相違するのみで、他の構成部材、即ち、筒体部及びエアバック部の構成は実質的に同一であるので、同一符号を付して、その詳細については説明が重複するので省略する。

筒体部 1 内に配設される洗浄液を保留し且つ押し出し部材 15 は、所謂袋体であって、該袋体は柔軟性を有する薄いフィルム材で筒体部 1 の内径と略同じ外径で且つ筒体部 1 の長さの略 1/2 の長さに形成され、該袋体の開口部は筒体部 1 の内側の略中間部に固定される。この場合に、例えば、筒体部 1 の半分の長さの内筒 16 を使用し、袋体の開口部を筒体部 1 の内周面と内筒 16 の一方の端部の外周面とで緊密に挟み付けて取り付けるようにし、内筒 16 が後端部 1b 側に位置するようにすれば簡単に取り付けられる。

そして、筒体部 1 に洗浄液を収納する場合には、筒体部 1 の先端部 1a 側の噴出孔 3 から所要量の洗浄液を注入することで、押し出し部材 15 である袋体は、筒体部 1 の中間部から後端部 1b 側に膨らんだ状態で洗浄液を保留するものであり、洗浄液の注入収納後において、先端部 1a に剥離性のフィルム材 10 を貼着して密封することにより、洗浄液は筒体部 1 と袋体とによって、所謂、カプセル状態で収納保留されることになる。

洗浄液が注入充填された筒体部 1 の後端部 1b 側にエアバック部 2 を連通状態に接続させること、エアバック部 2 を押し潰して筒体部 1 に添わせコンパクトにして包装すること等においては、前記第 1 の実施の形態で説明したことと実質的に同じである。

この第 2 の実施の形態に係る携帯用ピデの使用に際しては、前記第 1 の実施の形態で説明したように、エアバック部 2 に空気を入れて膨らました状態にしてから先端部 1a 側のフィルム材 10 を剥がし、筒体部 1 を局部に挿着して、エアバック部 2 を手でゆっくりと握り潰すようにすることで、第 6 図に示したように、圧縮空気を筒体部 1 側に供給し、該供給された圧縮空気によって押し出し部材 15 である袋体が先端部 1a 側に押圧変形させられることで、筒体部 1 と袋体内に

収納されている洗浄液が噴出孔 3 から局部内に噴射または噴出し、局部内を殺菌・洗浄して消毒・消臭できるのである。

また、エアバッグ部 2 を手で強く握ってエアバッグ部 2 内の空気を押し出していれば、押し出し部材 1 5 である袋体が空気圧によって変形し続けて袋体の底部が先端部 1 a に到達するので、内部に収納した洗浄液のほとんど全部を噴出させることができるし、エアバッグ部 2 を手で握ることによる内圧により細径部 6 が硬直するので、筒体部 1 を押さえなくてもエアバッグ部 2 を手でしっかりと握ってさえいれば、洗浄液の噴出による反動で局部から抜け出すことがなく、安定した状態で使用することができる点においても、前記第 1 の実施の形態で説明したとおりである。

いずれにしても本発明に係る携帯用ビデは、要するに、洗浄液を収納する筒体部 1 と空気圧で洗浄液を噴出させる握り部を兼ねたエアバッグ部 2 とからなるものであり、携帯時にはエアバッグ部 2 を薄く折り畳んで嵩張らないようにして携帯を便利にし、使用時にはエアバッグ部 2 を膨らまして握り締めることにより効率よく洗浄液を局部内に噴出して洗浄・殺菌並びに消毒・消臭させることができるようにしたものである。

産業上の利用可能性

以上説明したように、本発明に係る携帯用ビデは、洗浄液を収納する所要長さの筒体部と、該筒体部の後端部に連設され握り部を兼ねて洗浄液を噴射させるためのエアを供給するエアバッグ部とから構成され、前記筒体部は、硬質の樹脂で形成されその先端部を円弧状に形成して少なくとも 1 個の噴出孔を設けると共に、内部には洗浄液を保留し且つ押し出し部材が配設され、前記噴出孔は、洗浄液収納後に剥離可能なフィルム材で閉塞し、前記エアバック部は、封止可能なエア導入口を有する可撓性または柔軟性の樹脂で形成され、未使用時には、前記エアバッグ部を押し潰して前記筒体部の側面に添わせた状態にして包装する構成として

- ことにより、部品点数が少なくて安価に提供できるばかりでなく、全体が小型コンパクトに纏められており、携帯に便利であると共に、使用時には、握り部を兼ねたエアバック部を膨らまし、該エアバック部を握って加圧することにより押し出し部材が移動または変形して噴出孔から洗浄液を噴出させることができるのであり、操作が極めて簡単に行えるという優れた効果を奏する。
- 5

また、洗浄液として、1～20ppm濃度の銀イオン水または銀コロイド水を使用することにより、水道水を使用するものと異なり、洗浄後における局所の殺菌・消毒並びに消臭をして不安を解消させることができるという優れた効果を奏する。

請 求 の 範 囲

1. 洗浄液を収納する所要長さの筒体部と、該筒体部の後端部に建設され握り部を兼ねて洗浄液を噴射させるためのエアを供給するエアバッグ部と

5 から構成され、

前記筒体部は、硬質の樹脂で形成されその先端部を円弧状に形成して少なくとも1個の噴出孔を設けると共に、内部には洗浄液を保留し且つ押し出し部材が配設され、

前記噴出孔は、洗浄液収納後に剥離可能なフィルム材で閉塞し、

10 前記エアバック部は、封止可能なエア導入口を有する可撓性または柔軟性の樹脂で形成され、

未使用時には、前記エアバッグ部を押し潰して前記筒体部の側面に添わせた状態にして包装すること

を特徴とする携帯用ビデ。

15

2. 前記洗浄液は、1～20ppm濃度の銀イオン水または銀コロイド水である請求の範囲第1項に記載の携帯用ビデ。

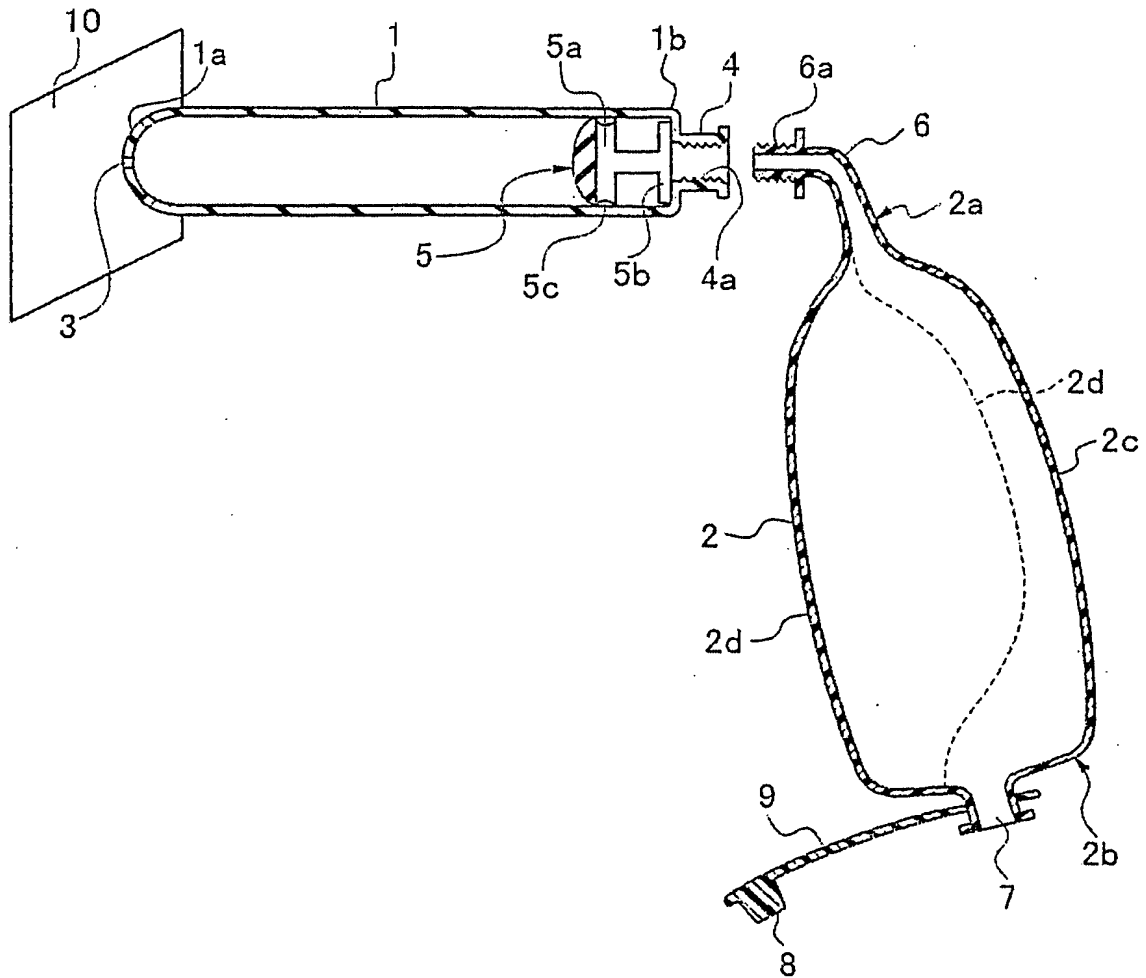
3. 洗浄液を保留し且つ押し出し部材は、摺動可能なシリンジ部材または袋体で

20 ある請求の範囲第1項に記載の携帯用ビデ。

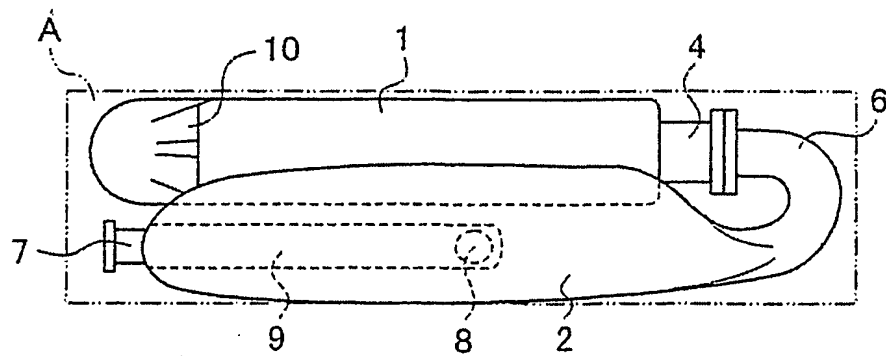
4. 前記エアバッグ部には、エア導入口を塞ぐ栓部材または弁部材が設けてある請求の範囲第1項に記載の携帯用ビデ。

1/3

第 1 図

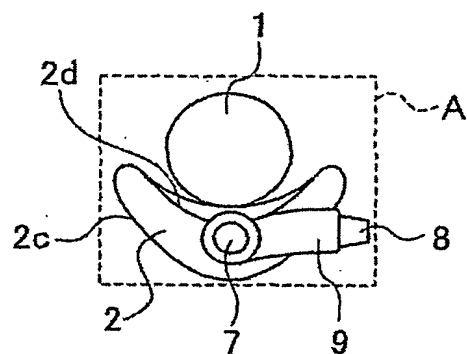


第 2 図

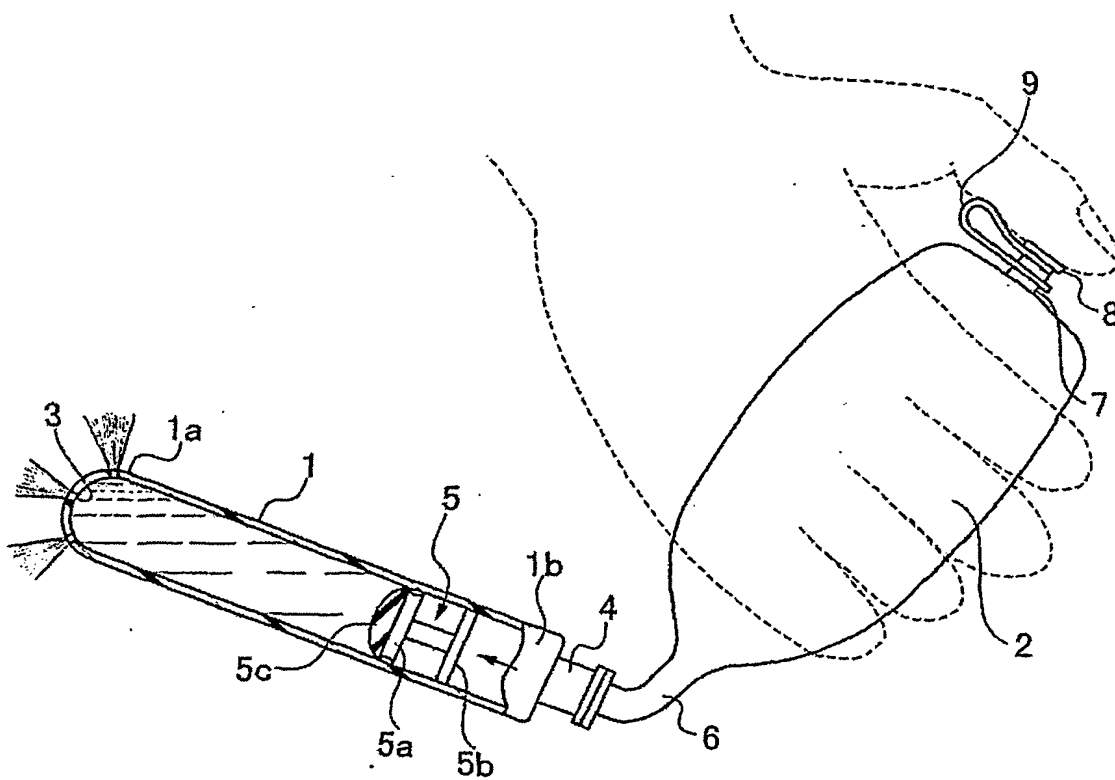


2/3

第 3 図

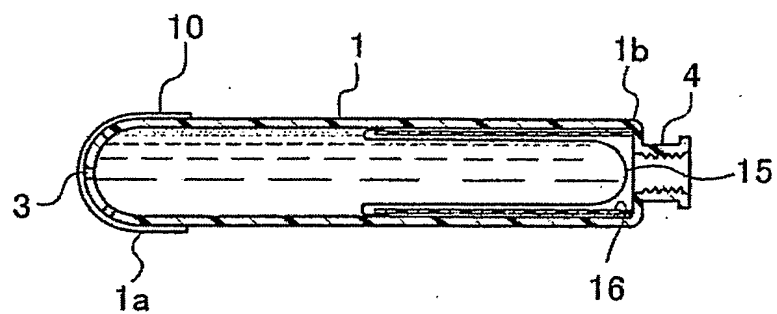


第 4 図

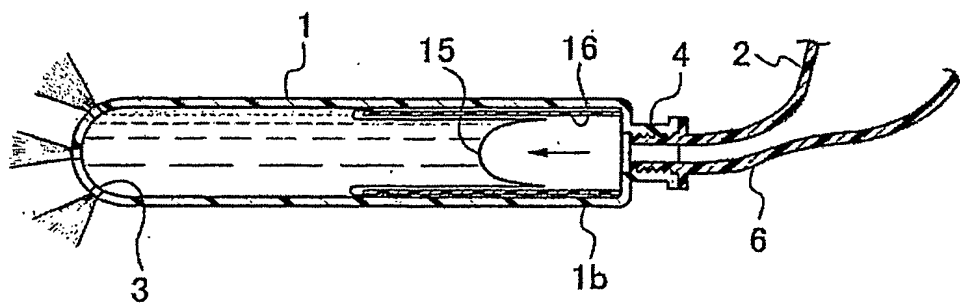


3/3

第 5 図



第 6 図



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP03/10318

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl.⁷ A47K7/08, A64H35/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
Int.Cl.⁷ A47K7/08, A64H35/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2003
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2003 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2003

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 9-192197 A (Masaharu YANAKA), 29 July, 1997 (29.07.97), Full text; all drawings (Family: none)	1-4
A	EP 985400 A1 (Tani, Kanari), 15 March, 2000 (15.03.00), Full text; all drawings & JP 2000-139760 A Full text; all drawings & US 6190366 B1	1-4

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

<p>* Special categories of cited documents:</p> <p>"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance</p> <p>"E" earlier document but published on or after the international filing date</p> <p>"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)</p> <p>"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means</p> <p>"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed</p>	<p>"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention</p> <p>"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone</p> <p>"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art</p> <p>"&" document member of the same patent family</p>
--	---

Date of the actual completion of the international search
04. November, 2003 (04.11.03)

Date of mailing of the international search report
18 November, 2003 (18.11.03)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A47K7/08 A64H35/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A47K7/08 A64H35/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2003年
日本国実用新案登録公報	1996-2003年
日本国登録実用新案公報	1994-2003年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 9-192197 A (矢中 正晴) 1997. 07. 29, 全文, 全図 (ファミリーなし)	1-4
A	EP 985400 A1 (Tani, Kanari) 2000. 03. 15, 全文, 全図 & JP 2000-139 760 A, 全文, 全図 & US 6190366 B1	1-4

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

04. 11. 03

国際調査報告の発送日

18.11.03

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

河本 明彦



2R

9417

電話番号 03-3581-1101 内線 3285